

EU Indicators

欧州経済指標コメント：10月英国失業率・賃金

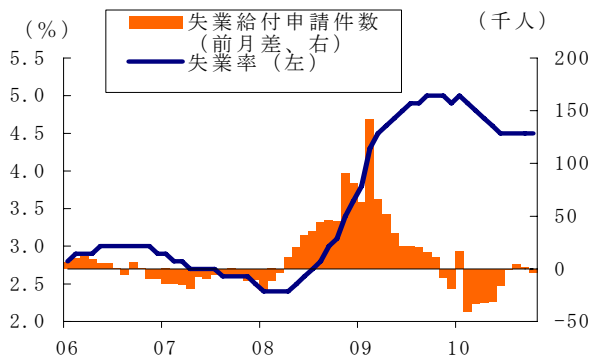
発表日：2010年11月18日(木)

～雇用環境の改善は頭打ちも、一気に悪化している訳ではない～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

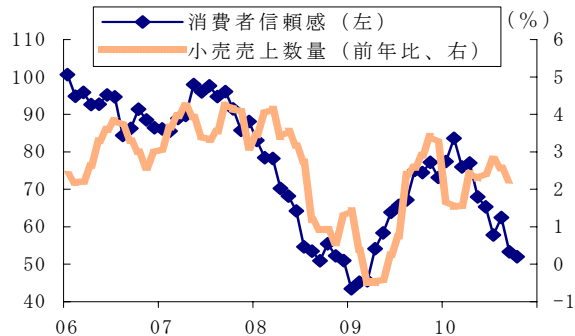
- 10月の英国の失業率（労働力人口に占める失業保険申請件数の割合）は4.5%。年初の5.0%をピークに改善を続けてきたが、6月以降は5ヶ月連続で横ばい推移（左図）。もっとも、8・9月に増加に転じた失業保険申請件数は再び減少（前月差▲3,700人）。就業率や労働時間も増加基調が続いている。雇用環境の改善は頭打ち傾向にあるものの、このまま一気に悪化する兆候は見られない。
- 週当たり賃金は昨年後半の前年比+1%強をボトムに緩やかに持ち直し、今年の7月以降は同+2%台で推移している。だが、消費者物価が前年比3%超で推移するなか、実質賃金は引き続きマイナス圏にある。加えて、政府が財政再建を進めるなか、先行きの家計所得の目減りを予想したり、耐久財消費の手控えを検討する家計の割合が増えており、家計マインドの悪化が続いている（右図）。但し、10月20日の歳出レビューの発表後に一段の冷え込みも予想されたが、その後に発表された家計マインドは小幅の落ち込みにとどまり、財政再建による期待所得の修正がある程度進んでいる可能性がある。
- 同日発表された11月3・4日のBOE金融政策委員会議事録では、前回同様に、引き締め派・追加緩和派・据え置き派に政策委員の意見が割れていること、物価の上振れ・下振れ双方のリスクを警戒しつつ様子見姿勢を継続するとの方針が改めて確認された。期待インフレに大きな変化がなく、雇用環境・家計マインドの悪化がこの程度で踏み止まっているのであれば、BOEの様子見継続は正当化されよう。

■英国：失業率と失業給付申請件数



出所：英国連邦統計局

■英国：家計マインドと小売売上



注：小売売上は自動車を除く、3ヶ月移動平均
出所：Nationwide Building Society、英国連邦統計局

■英国の失業給付・平均賃金

	2009		2010									
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
失業率（失業給付、%）	4.9	5.0	4.9	4.8	4.7	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
失業給付件数（前月差、千人）	-18.8	16.2	-40.1	-32.7	-32.0	-31.1	-15.9	-1.0	3.8	1.3	-3.7	
就業者数（前月差、千人）	-2.0	-42.0	-18.0	-4.0	33.0	108.0	43.0	135.0	0.0	31.0	-	
就業率（%）	70.5	70.4	70.3	70.3	70.3	70.5	70.5	70.7	70.7	70.8	-	
週当たり平均労働時間（前年比、%）	-0.9	-0.9	0.3	0.3	-0.3	-0.9	0.0	0.6	1.3	0.3	-	
週当たり賃金（産業計、前年比、%）	0.5	0.4	5.5	6.8	0.4	0.9	1.1	1.8	2.1	2.2	-	
賃金	1.4	1.8	1.5	2.0	1.4	1.2	1.4	2.2	2.3	2.2	-	
ボーナス	-6.6	-25.0	43.4	46.6	-20.2	-2.5	-5.7	-4.7	-5.5	-0.7	-	

注：就業者数、就業率、労働時間は当月で終わる3ヶ月移動平均

出所：英連邦統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。